



もりおか

No118

令和7年8月号

農委だより

発行／盛岡市農業委員会

〒020-8532

盛岡市津志田 14 地割 37 番地 2

電話 019-639-9034 (業務係)

019-601-5072 (農地係)



そば畑に設置した電気柵(玉山・薮川地区)

地域でできる取り組み

玉山・薮川地区では、そばやとうもろこしを作付けする農家が、深刻化する野生獣による被害を最小限に抑えるため、電気柵を設置し、獣害対策に取り組んでいます。

地区の農家では、とうもろこし畑の周囲に、ニホンジカの侵入防止対策として、電気柵を張り巡らせています。電気柵は、市からの補助金を活用し

獣害ゼロを目指して



とうもろこし畑に設置した電気柵(玉山・薮川地区)

て購入しました。設置には、地形に合わせて支柱の間隔や高さを調整したほか、雑草や落ち葉が柵に触れると漏電やショートの原因になることから、定期的な草刈りや配線の確認など、日々の管理が欠かせません。

設置後も、野生獣のうちイノシシやクマは、柵の下を掘ったり、飛び越えて侵入するので、なかなか一筋縄ではいきません。まさに根気と工夫の連続ですが、このような取り組みを行うことで収穫量の維持・向上が期待されます。

地区では、7～8年程前から水稻、麦や牧草がニホンジカによる被害を受けているほか、飼料となるデントコーンや牧草ロールについても、イノシシ、クマ、タヌキ、アナグマなど野生獣による被害が多く発生し、農家に大きな損害を与えており、農畜産業への影響も深刻化してきています。

岩手県の野生鳥獣による農作物被害額は5億2千万円(令和5年度)に上り、前年度と比較して11%増加しているほか、営農意欲の減退や耕作放棄など営農に大きな被害を及ぼしています。

今後においても、国等の交付金を活用した対策や、新たな捕獲担い手の確保・育成などに地域と市が共同で取り組んでいくことが期待されます。

(玉山・薮川地区調査会)

地域とともに歩む農業の第一歩

地域には新規就農者を支える出会いがある

本宮地区の新規就農者をご紹介します。
令和5年からミニトマトの栽培を頑張る熊谷達也さんです。前職の造園業から転身しました。

日々植物に囲まれ過ごす中で、植物を育てることに魅力を感じていました。

就農するにあたって、休耕している農地と中古ハウス探しから始め、現在は3地区に16棟のパイプハウスを建設して、ミニトマトの栽培に取り組んでいます。

これまで、近隣地区でミニトマトを栽培している先輩農家から、栽培に適した環境

や温度管理などの技術の指導を受けたほか、防除農機具などを安く譲り受けながら試行錯誤を重ねてきました。

作業は、バイトさん2名の力を借りて早朝から励み、今後「楸（ひさぎ）農園」として、地元の皆さんに利用して貰えるような直販所の開設を目指しています。熊谷達也さんは、本宮地区初めての新規就農者として注目され、新たな受け手として地区の出し手から期待されています。（本宮地区調査会）



宮城県 栗原市農業委員

農地利用最適化推進委員来盛

地域農業の現状や課題を共有



なきつかけになる。」（栗原市農業委員）として、農地の情報を正確に共有することの有効性を確認しました。
今後においても、持続的に農地の利用を図りながら地域農業の活性化を進めるため、新規就農者を確保・育成しつつ、地域全体で農地を利用していく仕組みの構築に関係者一丸となって取り組むことが求められます。

特に、昨年の地域での話し合いで、盛岡市がタブレットを活用したことについて、「タブレットを見ながら、受け手の方、担い手の方と一緒に、10年後の耕作者を決めていくことで地域の課題が見えてくる」（盛岡市農業委員）の意見に対し、栗原市から「地域計画をつくる取組で大変有効

宮城県栗原市より、農業委員・農地利用最適化推進委員の合計6名が令和7年6月3日に視察研修のため来盛し、盛岡市農業委員と意見交換を行いました。

栗原市と盛岡市の農業の現状や、令和7年3月に策定した地域の田や畑など農地利用の将来の姿を明らかにする設計図である「地域計画」への取組について、活発な意見交換が行われました。

年 300 日以上開く朝市～農産物・加工品ずらり～



買い物客でにぎわう神子田朝市

暮らしと観光支える

盛岡市・神子田町

神子田町の神子田（みこた）朝市は、年間300日以上開かれている全国でも珍しい朝市です。早朝から多くの買い物客でにぎわい、新鮮な農産物や加工品が並ぶ光景は盛岡の風物詩となっています。

神子田朝市は、農家が主体となって運営する盛岡地区生産者組合が1968年11月から始めたものです。

農家以外にも業者や飲食店、美容室や占いの店など、幅広い出店者が

参加している点が特徴です。ラーメンやひつまみ、海鮮丼などの作りたての料理を楽しめる店もあり、訪れる人々を楽しませてくれます。若い世代も店頭に立ち、活気に満ち溢れています。

子どもの頃から来ているという男性客は、「旬の野菜が手ごろな価格で手に入り、季節の変化を感じられるのがいい」と笑顔で話していました。

伝統を大切にしながらも新たな魅力を取り入れ続ける神子田朝市は、今後も地元の暮らしと観光の両面で多くの人を引き付ける存在です。

営業時間は、4月から12月は午前5時から8時まで、1月から3月は午前5時30分から8時30分まで、定休日は毎週月曜日（祝日の場合は営業）となっています。

朝市のマスコット
「あさどりくん」



しっかり積み立て がっちりサポート 農業者年金に加入しませんか？

- 農業者の方なら広く加入できます。
- 少子高齢時代に強い積立方式
確定拠出型の年金です。
- 保険料は自由に決めることができます。
- 税制面の優遇措置があります。
- 保険料の国庫補助があります。
- 終身年金です。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金があります。

次の3つを満たせばどなたでも加入できます！

- ① 65歳未満 ※60～65歳未満の国民年金の任意加入被保険者の方
- ② 年間60日以上農業に従事する
- ③ 国民年金第1号被保険者

保険料の国庫補助の仕組みがあります。
国庫補助を受けるには認定農業者で青色申告者等の一定の要件が必要です。

詳しくは農業委員会事務局、JAの窓口、あるいは農業者年金基金HP（右記二次元コード）からご確認ください。



動物の餌場対策にご協力ください

盛岡市内において、カラスやハクビシンなどによる**糞害・農作物への被害**が発生しています。

追払いや捕獲だけでは被害は減りません。被害を減らすために野生動物の**エサ場対策**にご協力ください。

エサ場対策

① 農地に収穫しない農作物を放置しない。

埋める、シートで覆うなど、動物から見えないようにしましょう。

② 畜舎への侵入口をなくす。

隙間にネットを張るなどして、家畜のエサだけでなく、家畜への被害も減らしましょう。



盛岡市環境部環境企画課
☎019-613-8419(直通)

農地パトロールを実施しています！

農業委員会では、農地利用状況調査を実施しています。調査のため、農業委員等が農地に立入る場合がありますので、ご理解ご協力をお願いします。

遊休農地化してしまうと、雑草・病害虫・有害鳥獣が発生し、周辺農地や住民の生活環境に影響が及ぶ心配があります。農地の適正な管理をお願いします。

農繁期の農作業事故

農作物被害にご注意を

令和7年度岩手県農作業安全スローガン

**「忘れずに！ 点検・確認・安全管理
無事故で終える収穫作業」**

農繁期は、作業者の不注意や誤った農業機械の操作による事故が多発しています。農作業中の事故発生防止のため、次の点に注意しましょう。

- ・ほ場周辺の危険箇所を確認すること。
- ・機械作業時はシートベルトとヘルメットを着用すること。

近年は、農作物の育成が進むにつれ、ニホンジカやツキノワグマをはじめとした有害鳥獣による被害が多数発生しています。

農作物被害の報告方法や、クマ出没情報については、右記二次元コードからご確認ください。



農地の売買情報

	No	農地の所在	地目	面積(a)	申出価格
売渡	1	中太田小沼	田	8a	応談
	2	上飯岡7地割	田	28a	応談
	3	川目第16地割	畑	15a	応談
		川目第19地割	畑	41a	
	4	土淵字谷地道	田	49a	応談
	5	乙部26地割	田	70a	応談
	6	猪去堰合	田	41a	応談
買受	1	太田地区	畑	50a	応談



農地の売買、貸借のあっせんなどを希望される方は、お気軽にお問い合わせください。

農地係 ☎601-5072
玉山分室 ☎683-3856

「農委だより」は市ホームページでもご覧いただけます！



過去の「農委だより」は、令和3年分から、盛岡市ホームページで公開しています。

左記二次元コードを読み取ってご覧ください。

全国農業新聞を購読しませんか

一週間の農政の動きや現場で役立つ栽培技術・流通の情報、魅力的な農家の取組などを幅広く伝え、経営発展に役立つ新聞です。

- 発行日 毎週水曜日
- 購読料 1ヶ月 700円(送料・税込)
- 申込み 農業委員会事務局



詳しくはこちらの二次元コードからご確認ください。